

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1-31	令和5年度第2回すみだ食育推進会議	
開催日時	令和6年3月13日(水) 午後1時30分から午後3時まで		
開催場所	墨田区役所12階 122会議室		
出席者 (敬称略)	<p>【委員】佐伯信郎、友成真一、原寛道、羽原隆、大久保勝久、大西雅之、米倉れい子、高橋幸恵、田口武司、平田慎吾、本多秀行、河上俊郎、須藤浩司(保健衛生担当次長)</p> <p>【事務局】保健計画課長、保健計画課保健計画担当主査、主事、栄養士2人</p>		
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 会議録の公開	傍聴者数	なし
議 題	<p>1 保健衛生担当次長 あいさつ</p> <p>2 報告 令和5年度食育推進事業について(進捗報告)</p> <p>(1) 区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業</p> <p>(2) すみだ食育フェス2023「食育で みんながつくる 笑顔の環(わ)」</p> <p>(3) 中学3年生の「農業・漁業体験」に関するアンケート調査</p> <p>(4) 災害時食支援ネットワーク検討会</p> <p>(5) すみだ食育推進リーダー育成講習会</p> <p>(6) こども商店街事業</p> <p>(7) 墨田区食育推進計画定性評価検討会議・「定性的な評価」ワークショップ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和6年度食育推進事業(予定)</p> <p>(2) 令和6年度定性的な評価の流れ(案)</p> <p>(3) 令和6年度災害時食支援ネットワーク検討会について(案)</p> <p>4 その他(情報交換など)</p>		
配 付 資 料	<p><配布資料></p> <p>資料1 令和5年度すみだ食育推進会議委員名簿</p> <p>資料2 令和5年度区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業実績</p> <p>資料3 すみだ食育フェス2023「食育で みんながつくる 笑顔の環」実施報告書</p> <p>資料4-① 「中学3年生の農業・漁業体験」に関するアンケート調査【報告】</p> <p>資料4-② 令和5年度「中学3年生の農業・漁業体験」に関するアンケート 調査【考察】</p> <p>資料5-① 令和5年度災害時食支援ネットワーク検討会の報告</p> <p>資料5-② 災害時食支援アクションカード</p> <p>資料6-① 令和5年度すみだ食育推進リーダー育成講習会の報告</p> <p>資料6-② 令和5年度すみだ食育推進リーダー育成講習会スケジュール</p> <p>資料7 令和5年度こども商店街</p> <p>資料8 令和5年度墨田区食育推進計画定性評価検討会議の報告</p> <p>資料9 墨田区食育推進計画における「定性的な評価」のワークショップ 実施報告</p> <p>資料10 令和6年度食育推進事業(予定)</p> <p>資料11 令和6年度「定性的な評価」の流れ(案)</p>		

	<p>資料12 令和6年度 災害時食支援ネットワーク検討会の概要（案） 資料13 ご意見・ご質問シート 【参考資料】 災害時の要配慮者食支援マニュアル 食育の芽 19号</p>
<p>会 議 録</p>	<p>1. 開会</p> <p>◇事務局</p> <p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度「第2回すみだ食育推進会議」を開催させていただきます。オンラインでご参加の委員の皆様、こちらの声はきちんと届いていますでしょうか。ありがとうございます。本日、司会をさせていただきます墨田区保健計画課長の澤田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。この「すみだ食育推進会議」につきましては、墨田区食育推進計画の理念を踏まえて、墨田区の食育を総合的に推進するために、区長の附属機関として条例により設置しております。</p> <p>また、この会議は、区の「審議会等の会議の公開に関する基準」に基づき、会議の公開及び議事録の公表を行うことになっております。本日は、傍聴者はいらっしゃらないことをご報告申し上げます。それでは初めに、保健衛生担当次長の須藤からご挨拶申し上げます。</p> <p>◇須藤次長</p> <p>皆様、こんにちは。保健衛生担当次長の須藤でございます。本日は、年度末のお忙しい中、ご出席をいただき、ありがとうございます。皆様には日頃から、区の食育事業に御理解・御協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。昨年5月に新型コロナウイルスが5類となり、コロナにより縮小・中止となっていた食育事業に関しても概ね再開してきております。本日の会議でも、今年度の食育事業について皆様にご報告をさせていただくとともに、来年度に取り組む予定の事業についてご説明をさせていただき、委員の皆様から忌憚のないご意見とご審議をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>◇事務局</p> <p>続きまして、今回の会議から、栗田委員に代わりまして、新たに墨田区社会福祉協議会の前田事務局長が委員となりましたが、本日はご欠席となっております。また、本日は友成委員と平田委員がオンラインでのご参加となります。なお、大西委員は少し遅れてのご出席、友成委員と羽原委員は、午後2時30分頃までのご出席と伺っております。途中退席の委員の方につきましては、議事の途中でも結構ですので、お時間になりましたらご退席ください。最後に、本日は、令和5年度の食育推進事業の報告のため、2名の行政栄養士が出席をさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは報告及び議事に入らせていただきます。ここからの進行は、佐伯委員長にお願い致します。</p> <p>2. 報告</p> <p>事務局より、資料2～9に基づき説明</p> <p>(1) 区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業 (2) すみだ食育フェス2023「食育で みんながつくる 笑顔の環(わ)」 (3) 中学3年生の「農業・漁業体験」に関するアンケート調査 (4) 災害時食支援ネットワーク検討会</p>

- (5) すみだ食育推進リーダー育成講習会
- (6) こども商店街事業
- (7) 墨田区食育推進計画定性評価検討会議・「定性的な評価」ワークショップ

※報告を受けて、各委員よりご意見、ご感想をお伺いした。

3 議事

事務局より資料 10～12 に基づき説明

- (1) 令和 6 年度食育推進事業（予定）

※ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。

- (2) 令和 6 年度定性的な評価の流れ（案）

※ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。

- (3) 令和 6 年度災害時食支援ネットワーク検討会について（案）

※ここで委員長による採決の結果、過半数以上の賛成をもって承認された。

-----以下、意見交換の概要-----

□佐伯委員長

皆様にご協力いただき、議事を進行してまいりたいと思います。なお、本会議は「委員の過半数の出席において開催」となり、議事承認については「出席委員の過半数」の賛成をもって承認となります。本日は委員の過半数のご出席をいただいております（14 名中 14 名出席）。それでは、進めさせていただきます。事務局から報告してもらい、その後、委員の皆様の質疑・ご意見をお伺いしたいと思います。次第 2「報告」の（1）の「区・すみだ食育 good ネットの食育推進事業」、（2）の「すみだ食育フェス 2023」、（3）の「中学 3 年生の農業・漁業体験に関するアンケート調査」についてまとめて報告してもらい、委員のみなさまの質疑・ご意見をお伺いしたいと思います。それでは、事務局から報告をお願いします。

◇事務局

今年度の食育推進事業のご報告をさせていただきます。まずは、今年度の区とすみだ食育 good ネットとの食育推進事業についてご報告致します。資料 2 をご覧ください。今回から記載方法を変更しまして、各事業の内容と実績について追加をしております。長い資料になりますので、ざっくり今年度の特長をご報告させていただきますと、コロナも 5 類となり、イベントや事業がかなり復活してきているというところがあるかと思います。主だったイベント・事業については、資料 3 以降でご説明をさせていただく予定ですので、ここではそれ以外の事業についてご報告致します。

6 月には「食育推進全国大会 in とやま」に、区とすみだ食育 good ネットで隣同士のブースで出展させていただきました。good ネットのブースでは、交流のある北海道の芽室町の職員や生産者の方々とともに、「芽から始めるすみとかプロジェクト」の取組等についてご紹介しました。墨田区の官・民と芽室町の官・民の関係者がともに「食」を通じた交流事業を P R する機会となりました。もう一つ大きいところだと、区の文化芸術振興課が窓口となって、すみだ食育 good ネットとともに進めている北海道の芽室町との交流について、今後の交流の方向性と官民での交流の体制づくり等について意見交換をするため、区長とともに芽室町を訪問させていただきました。10 月 17 日・18 日で訪問し、初日の 17 日には区長・町長による直接対談や、芽室町の職員や関係者の皆様とワークショップを行いました。ワークショップでは、今後の交流のアイデアや、それを実現する仕組みについて意見交換を行うとともに、新たなプロジェクト名についてもアイ

ディアを出し合いました。なお、3月中旬以降の事業については、来年度の会議にてご報告を行います。

続いて、すみだ食育フェス 2023 についてご報告致します。資料 3 をご覧ください。今年度の食育フェスは、食育月間である 6 月に実施時期を戻して行うことができました。内容としては、区役所での展示・体験以外にも、講演会や地域イベントを実施しました。来場者数はトータルで 1,714 人と、昨年度に比べて約 300 人増加しました。展示・体験の参加団体・テーマは裏面の通りで、一部重複もありますが、33 団体、配布物のみの団体も合わせると 38 団体に出展いただきました。展示・体験コーナーについては、来場者にアンケートを取らせていただいたのですが、8 割以上の方に「とても満足」もしくは「満足」とご回答いただきました。保育園や小学校・中学校の給食のメニューに関する展示のような分かりやすい「食育」の展示だけでなく、様々な視点からの食育が知れて良かった、といったご意見や食育に関する意識が高まったといったご意見等たくさんのご意見をいただきました。講演会・講習会や地域イベント等も展示と時期を合わせて実施ができる状況になりました。各イベント等についてはあとで資料をご覧くださいだけだと思います。なお、今年度も墨田区主催・すみだ食育 good ネット協力という実施方法となりましたが、コロナ以前のように運営委員会方式に戻すのか、新たな実施方法を一緒に考えていくのか、といった課題もありますので、今後庁内で検討し、good ネットともご相談していきたいと考えています。

続きまして、中学 3 年生の農業・漁業体験に関するアンケート調査の報告についてです。

お手元の資料 4 - ①をご覧ください。食育推進計画において、「学校の体験以外で農業・漁業体験をした中学生の割合」を「定量的な評価指標」と設定しており、毎年中学 3 年生を対象に実施しているものになります。昨年秋に実施をし、このたび結果がまとまりましたので、簡単にご報告致します。右半分のグラフ部分をご覧くださいなのですが、学校の活動以外で農業・漁業体験をした生徒の割合は、農業で 52.2%、漁業で 38.3%となっており、令和 4 年度と比べて概ね横ばいという結果となりました。令和 4 年度は、令和元年度比で、農業で 25%、漁業で 11%も増加していたため、この数値が維持されるのかを注視していたところでしたが、4 年度と比較すると大きな変化はありませんでした。ただ、いずれにしろ学校でしか体験をしない生徒が農業・漁業とも約 30%を占めており、学校での授業や体験が大きく影響をしていることが伺えます。

また、今年度は資料 4 - ②のような形で、アンケート項目のクロス集計等も行い、考察を入れております。すべては難しいのですが、いくつか抜粋させていただくと、はじめの「参加の有無」の部分で、農業体験に関しては、学校での栽培体験も含めての質問のため、教科の中で必ず実施しているにも関わらず、「参加したことがある」と回答した割合が 8 割程度にとどまっており、記憶がないのか、「農業」という認識ではないのかは不明ですが、自分で育てている実感が少ないことが推察されます。また、次ページの下から 2 番目ですが、参加する主な目的として、農業・漁業ともに「美味しいものを食べたい」「自然を満喫したい」といった回答が大部分を占めており、農業・漁業や食への理解へとつなげていくにはどうしたら良いのかといったところも課題かと思っています。ただ、中学 3 年生くらいの年代で、そもそもそこまで深く考えて行動するのかといった点や、美味しいものを食べたい、自然を満喫したいといった動機で体験し、その結果として農業・漁業への理解を深めるといった流れになるのが自然なような気もするため、現在の設問自体も適切かどうか検討をする必要があるかと考えております。また、この後ご報告する定性評価検討会議の中でも、この農業・漁業体験のアンケート調査の中で、生徒たちの意識の変化や行動の変化といったところが

このアンケートを活用して取れるようになると良いのでは、といったご意見もいただいておりますので、今後の計画改定に向けて検討をしていければ、と考えております。

□佐伯委員長

報告を受けてのご意見、ご感想をお伺いしたいと思います。大久保委員はすみだ食育 good ネットの会員として、令和元年度から芽室町との交流事業にも関わっていらっしゃいますし、昨年 10 月には区長や行政職員とともに、芽室町を訪問されたと伺っております。何か補足やご意見・ご感想等ございますか。

■大久保委員

芽室町との交流事業は回数も重ねられて顔の見える関係となり、今後の交流についてのアイデアをワークショップで検討したりと、段階的に取り組めております。今後も継続していきたいと考えています。

□佐伯委員長

ありがとうございます。続いて「すみだ食育フェス」についてご意見を伺いたいのですが、高橋委員は、すみだ食育フェスに「すみだ地域栄養ネットワーク」として出展され、実際に会場にも行かれたと伺っていますが、何かご意見・ご感想等ありますでしょうか。

■高橋委員

昨年に比べ、展示の出展数や来場者数が増えた印象がありました。ただ、職場のメンバーは区民でもイベント開催を知っている人がいなかったのも、今後は SNS を活用していただくと、食に興味がある方には情報が届くと良いのではないのでしょうか。また、日曜開庁の時とイベントを合わせたり、工夫ができると良いと思いました。

□佐伯委員長

ありがとうございます。事務局はいかがですか。

◇事務局

イベントの周知のために SNS は活用しているのですが、回数が少ない等で、ターゲット層に届いていないのかもしれないので、方法を検討していきたいと思います。また、来年度については、開催日程が日曜開庁日に当たっているので、より多くの方に見ていただけたらと思います。

■田口委員

「中学 3 年生の農業・漁業体験」に関するアンケート調査について質問します。子ども達は全員、義務教育期間の授業を通して農業体験をしているという話については、私が住んでいる文花地区でも、小学校 1・2 年生でトマトの栽培をしています。ただ、夏休みに入ると水やりのために、各家庭に持ち帰るので、「観察」をする感覚になったり、宿題的なものと感じてしまい、農業体験と思わないのかもしれませんが。また、漁業体験については、あわの自然学園での宿泊の際に、マスつかみを体験する機会がありました。ただ、数年前に閉館しており、今は福島や長野の別施設に宿泊していると聞いています。そこだとマスつかみはできないかもしれないので、漁業を体験する機会が、今後は減ることが考えられます。釣りであれば近場で可能かもしれませんが、その辺りはどう考えていますか。

◇事務局

教育委員会が行き先を決めているので、本日いただいたご意見についてはきちんと教育委員

会にも伝えていきたいと考えています。体験を組み込んでいくことができるのかを相談したり、可能なことを考えていければと思うので、まずは、所管へ伝えていきます。

□佐伯委員長

ありがとうございます。では、事務局より（４）令和５年度災害時食支援ネットワーク検討会と（５）すみだ食育推進リーダー育成講習会、（６）こども商店街について報告ください。

◇事務局

資料５－①をご覧ください。今年度の災害時食支援ネットワーク検討会の報告です。区では、食育推進計画の３つのリーディングプロジェクトの１つとして、乳幼児や高齢者、持病のある方などの災害時に食への配慮が必要な方への食支援を着実にを行うために、「災害時食支援ネットワークの構築」を掲げています。この検討会では、関係者で集まり、平時から災害時の食支援について議論・情報共有をしています。今年度は９月と１月の２回開催をしており、参考資料の「災害時の要配慮者食支援マニュアル」のブラッシュアップ、アクションカードの作成・検討を行いました。マニュアルについては、昨年の会議の場で本多委員からすみだのデザイナーに頼んでデザインのブラッシュアップができるとなお良いといったご意見をいただきました。区では、シティプロモーション戦略の一環で、区内のデザイナー等にアドバイスをもらえるプロモーションサポート事業を行っており、昨年この制度を活用して、区内のデザイナーにアドバイスをいただきました。その結果、章ごとのテーマカラーを決める、インデックスをつける、事象別の逆引きの目次を作るといった改良を致しました。また、昨年度から検討を続けてきたアクションカードについても、資料５－②のような形で会議の場で事務局案をお示し致しました。委員の皆様からは概ねご承認いただいたところですが、やはり実際にシミュレーションを行ってみなければ分からないということで、今年の１月にアクションカードを使ったシミュレーションを実施しました。今回は、避難所の受付で「食の支援が必要な人を把握する」をテーマに委員の皆様には受付役や避難者役等の役割を担っていただき、シミュレーション致しました。シミュレーションをした結果、アクションカード自体への改善点のご意見もいただいておりますので、ブラッシュアップしていきたいと考えています。また、委員が専門職しかいないということもあってか、割合スムーズに実施することができたのですが、実際専門職ではない方々がシートを使った場合はそうはならないと思いますので、町会や自治会でのシミュレーションなどもいざ行っていきたいと考えています。また、そもそもの避難所運営全体に対する課題のようなご意見もいただいておりますので、そこは防災課とも共有の上、検討をしていきたいと考えています。

続いて、「すみだ食育推進リーダー育成講習会」のご報告を致します。資料６－①、６－②をご覧ください。すみだの食育では、平成２０年度から「食育を推進する中核となる人材」として「すみだ食育推進リーダー」を育成しています。今年度は、４年ぶりに実施をし、１０名の応募があり、１０月～１２月にかけて全７回の日程にご参加いただき、１０名の「すみだ食育推進リーダー」が誕生しました。本日ご出席いただいている委員の皆様にも講師としてご登壇いただき、ありがとうございました。内容としては、資料６－②のプログラムにあるとおり、様々な分野・立場の方々から、「食育」や「すみだの食育」について学んでいただき、最終的には学んだ内容を活かして受講生がお互いに意見を出し合いながら、食育活動のアイデアをまとめました。資料６－①の裏面は、実際にリーダーの皆さんが２グループに分かれて意見を出し合いながらまとめた食育活動のアイデアになります。

メガネ'S班の皆さんは、「食の文化祭」をテーマに、離れた場所に居ながらも、オンラインの会議を通して情報交換をしながらつながりを育み、それによって企画やアイデアを生み出していく様子を寸劇形式で表現しました。「食の文化祭」という食のイベントを通して、「持続可能な推進体制」を実現していくというアイデアが生まれました。また、山茶花班については、「食ですべての人に生きがい」をテーマに、リーダーそれぞれが自分の持つ「夢」や、やりたいことを語り、子どもも高齢者も障害のある方もそうでない方も、多様な人が集う食堂をつくり、そこを拠点に多様な人の「夢」を実現していく、というリーダー全員の「夢」がカタチになっていく過程を表現しました。みんなが1つの場所に集まって「夢」を実現していくことで、最終的には「みんなが笑顔でたのしい食環境を通じて豊かな人生をおくる」ことを目指す、というアイデアが生まれました。

6期生の皆さんは、既に地域で様々な活動をされている方が多く、講習会終了後には、それぞれ今回生まれたつながりを活かして一緒に取組を行う事例も出てきています。ただ、これまで地域で活動をしたことがない方もいらっしゃいますので、区の方でも、リーダーの皆さんが情報交換や話し合いができる「場」を設定するようにしていきたいと考えています。すみだ食育推進リーダー育成講習会の取組については、本日追加資料として配布した「食育の芽 第19号」でもご紹介いただいていますので、あとでそちらもご覧ください。

続いて、こども商店街事業についてご報告致します。資料7をご覧ください。こども商店街は、「児童館」と「地域」、「こども」と「地域」を結ぶ取組で、こどもたちが地域のお店とつながり「学び・伝え・体験する」食育プログラムとなっています。コロナ前は、児童館に近隣のお店と交流していただき、そのお店のことを学んだあと、実際にそのお店の商品の販売を行っていました。しかし、コロナの影響により、昨年度は、販売体験ではなく、そのお店の魅力について伝える文章を子どもたちに作ってもらい、PR動画という形で伝えてもらいました。今年度は、販売体験と動画作成を選択できるようにし、販売体験についてはヤッチャバにご協力いただいています。販売体験が7館、動画作成が6館とちょうど半数ずつ実施をしています。動画作成については現在撮影がすべて終了し、編集を行っている段階で、販売体験については残り3館・2回となっています。販売体験は今年久々に再開しましたが、ヤッチャバの出店者の皆さんも温かく子どもたちを見守ってくださったり、販売しているものを買ってくださったりしています。また、子ども達も最初にヤッチャバの説明を受け、出店者さんのところにご挨拶に回ったり、販売終了後にヤッチャバの商品を購入したりと交流が生まれていました。以上です。

□佐伯委員長

まず、災害時食支援ネットワーク検討会についてですが、座長をされている河上委員から、今年度の検討会について補足やご意見等ありましたら、お願い致します。

■河上委員

事務局からの報告の通り模擬訓練をしましたが、何が課題かが分かり、大変良かったと感じています。今回のやり方だと受付に時間がかかり、並んでいる方を待たせてしまうため、今後改善していきたいと考えています。また、防災課の職員が参加していたことで、問題を共有できたと思うので、次につなげていきたいと思えます。

□佐伯委員長

ありがとうございます。田口さんは実際に区民として町会等の活動にも長年関わっていらっしゃいますが、こうした災害時の食支援の取組についてはどう感じていらっしゃいますか。

■田口委員

マニュアルを作っているというのは良い動きですし、防災課も参加されたのは良かったと思います。今後、是非、避難所運営を担う区民にも、周知して欲しいと思いました。拠点会議を定期的開催していますが、備蓄品を確認するだけになっています。こうした食の問題についても、拠点会議の場などで話してもらえると良いのではないかと思います。

◇事務局

防災課の職員とは、拠点会議での場等、食の支援について話題にすることは、調整次第では可能だと言ってもらっています。防災訓練に熱心に取り組んでいる町会などを紹介してもらっ等、こちらもアクションを取っていきたくと思っています。まずは、災害時に食の支援が必要な方がいらっやるということを知ってもらえればと考えています。

□佐伯委員長

すみだ食育推進リーダー育成講習会については、すみだ食育推進会議の委員の皆様も多数講師として関わっていただいたと聞いております。羽原委員も講師としてお話をいただいたそうですが、ご意見・ご感想等をお願い致します。

■羽原委員

「食と健康」をテーマに一コマ担当し、災害時食支援についてもご紹介しました。やる気がある方がたくさんいらっやっしたので、この講習会を受講した皆さんが地域で力を発揮できるように、行政としてこの後もサポートしていただきたいし、定期的に人材を育成していくことも必要だと思いました。

□佐伯委員長

ありがとうございます。大西委員は、大久保委員とすみだ地域栄養ネットワークの里見さんとともに講師としてお話をいただいたそうですが、受講生の様子や講習会の雰囲気等含めてご感想などありましたら、お願い致します。

■大西委員

大久保先生と一緒に嚙下について、お話ししました。大久保先生が舌圧計という機械を持ってきてくださったので、舌圧計を体験していただきながらお話ししました。皆さん熱心に話を聞いてくれながら、和気あいあいとした良い雰囲気でした。初めてこの講習会に参加しましたが、また今後も協力できることがあれば、テーマに合わせて関わっていければと思います。

□佐伯委員長

ありがとうございます。平田委員も講師として、ご自身の地域での食育活動についてご講演されたそうですが、地域で実際に食育活動を実践するお立場として、受講生の皆さんへ期待すること等あればお聞かせいただけますか。

■平田委員

食でバックボーンを持ってすでに活動されている方もいらっやっして、講習会3日目の夕方でしたが、意欲的に話を聞いており、頼もしい様子でした。ただ参加者の年齢が高めではあったので、今後も食育活動を継続的に盛り立てていくには、学生や子育て中の方が参加できるようにしていくと良いのではないのでしょうか。参加した方からいただいたご意見に、保育園や小学校が終わるまでの時間帯で講習会が設定されていると良いということが挙がっていました。それには、スライドを見るだけのものについては、オンラインを活用して各自で聴講する時間を調節できるよ

うにしたら良いと思います。また、リーダーになられた方のフォローもしていくことが必要なので、具体的に考えていることとは思いますが、すみだ青空市ヤッチャバは、常時活動しているので、活動の拠点としてぜひ活用してもらったらどうかと考えています。

◇事務局

受講生には30～40代の方もいましたが、年齢層が高めの方と半々ではありました。次回開催する際には、今回のご意見を参考にしてオンラインを導入する等、仕組みを整えられればと考えています。

□佐伯委員長

ありがとうございます。最後にこども商店街ですが、今年度はヤッチャバの場を提供されているということですが、本多委員から補足等あればお願いします。

■本多委員

こども商店街は、販売を開始する前に出店者のテントを周って挨拶をしてコミュニケーションを取る時間を設けたりしたので、子ども達も「売り方を聞きたいな」と言っていたり、大きな声で呼びかけをしたり、良い体験ができています。中には、ヤッチャバの出店者の商品（ニンジン）を事前に購入して、それを使った商品づくり（ニンジン入りのパン）をして、このこども商店街で販売する試みも実施できました。今後もヤッチャバと一緒にできることを考えて取り組んでいければと思います。また、平田委員からも話があったように、すみだ食育推進リーダーを育成後にサポートする場としても関わっていければと思います。

また、災害時食支援ネットワーク検討会については、訓練のシミュレーションをしたことで、待ち時間が課題に挙げられていました。それを解決するためには、非常用電源と情報収集用のタブレットなどの備品を備えておくなど、食の面からもICTの活用促進を防災課と一緒に話し合うことで、解決していけるのではないかと思います。

◇事務局

現在、区の避難所では、避難者に紙に記載していただくことを想定しています。そのため、受付票も印刷したもの500枚と筆記用具が各避難所に準備されています。タブレット等ICTが活用できると時間の短縮につながる可能性もあると思いますが、予算の問題もありますし、保健所だけで決定できるものではないため、所管である防災課にご意見を共有させていただきたいと思います。

□佐伯委員長

こども商店街には、かめばも児童館から依頼を受けて販売する商品を提供してもらいました。また、すみだ食育推進リーダーの育成後のフォローとしては、今回のこども商店街や来年度の食育フェスなどの参加を事前に情報発信すると良いのではないのでしょうか。来るか来ないかはその人次第ですが、伝えはした方が良いと思います。また、私が所属しているすみだ食育goodネットのメンバーも、こども商店街については、事前に日程等の情報を入れて欲しいと言っていたので、よろしくをお願いします。

続いては、事務局より（7）墨田区食育推進計画定性評価検討会議と「定性的な評価」ワークショップについて報告をお願いします。

◇事務局

では、令和5年度墨田区食育推進計画定性評価検討会議についてご報告します。資料

8をご覧ください。この会議は、令和4年6月に策定した墨田区食育推進計画の定性評価を行うに当たり、具体的なしくみについて検討するため、開催したものとなります。委員は資料8に記載の4名の方で、8月と10月の2回にわたり、定性評価のしくみ案についてご検討をいただきました。まず、今回の計画における評価の整理を行うため、墨田区食育推進計画に記載された評価指標について、真ん中の図の通り整理をさせていただきました。食育は、3つの評価指標を設けており、1つは先程ご報告した「中学3年生の農業・漁業体験アンケート調査」のような、区民の方の食育に関する意識の変化を数や割合の増減等で評価する「定量的な評価」、そして、今回検討を行う「定性的な評価」、3つ目が個別に行われていた活動が協働の活動へと発展した事例である「特徴的な活動事例」となります。「定性的な評価」については、これまでに育まれてきた「食育」の実践活動に着目し、「食」を通して生まれた「行動の変化」を明確にしていくこと、それに加えて食育がどのように推進されているか、区民の方々の取組と区取組の両面から検討・調査を行うこととしています。

検討内容のまとめについては、下の部分をご覧ください。まず1点目が、「すみだの食育」の評価の独自モデルの作成についてです。「すみだらしい食育」の暗黙知であるもの、たとえば、「手間かけてみんなでつくる」の「手間かけて」はということなのかを明確化していく、つまり、これまでの経験などから関係者が何となく感じていたもの、言語化されていないものを言語化して共有していくということになります。明確化するに当たっての方法としては、「手間かけてみんなでつくる」というのがすみだの食育の考え方の根底にある部分かと思しますので、10年以上の食育の実践活動の中から、関係者が「何を大切にどう取り組んだか？」をあぶりだしていく、そして、それは区民の方々の取組だけでなく、区取組も合わせて、両面から検討・調査していくことになりました。また、結果だけでなく、結果に至る道筋やその合意形成を丁寧に行っていくこととしました。そして、丁寧な合意形成ということで、1番下のスケジュールに記載しているとおり、まず今年度は「定性評価のあり方」を検討することとし、関係者と定性評価のあり方、どのように今後定性評価について検討していくのかといった部分についてワークショップを開催し、合意形成を行うこととしました。2月28日に開催したワークショップの詳細については、この後行政栄養士からご報告させていただきます。また、令和6年度には定性的な評価に向けた「モノサシ」=基準となるものをつくり、令和7年度以降はつくった「モノサシ」を使って定性的な評価を行っていき、次の食育推進計画に反映させていきたいと考えています。

以上、定性的評価検討会議のご報告でした。この後は、今年の2月28日に開催した「定性的な評価」のワークショップについて、行政栄養士からご報告をさせていただきます。

◇行政栄養士（3人）

お時間をいただき、ありがとうございます。配布資料9をご覧ください。「定性的な評価」のWSについてご報告をさせていただきます。今回のワークショップでは、食育推進計画で挙げている「すみだらしい食育」について明確化するため、令和3年度の計画改定作業部会に参画された区民の方と、意見交換を行いました。長く食育の活動をされている方も、「すみだらしい食育」を言葉で表現することは難しいかと思えます。今後も「すみだらしい食育」を継続していくため、官と民で話し合う機会を設け、次回の計画改定に当たる令和8年度を見据えながら、「定性的な評価」のあり方について、検討しました。

続いてワークショップの枠組みについてご説明します。タイトルは、「すみだらしいとは何か？～暗黙知（実践知）から形式知へ～」とし、計画改定時の部会メンバーと行政職員で、「すみ

だらしい]を目に見えるカタチで表し、令和6年度の評価のモノサシづくりへと展開させるため、まずは行政栄養士で定性評価検討会議の議事録を読み込み、事前のワークを行い、焦点を探っていき、ご覧の図のポイントに絞りました。左の青い部分は、これまでの計画がどのようにデザインされてきたのかを検討し、WSでは「何を育もうとしてきたのか」というテーマで、計画の変遷に沿って意識してきたことについて、官と民で共有したいと考えました。

次に、右の黄色の部分は、「これまでの業務の中で感じた評価への疑問など、どう価値を模索してきたか」を行政栄養士で検討し、それを受け、WSでは、「何を大切にしてきたのか」を、これまでの実践活動を振り返り、官と民が大切だと実感したこと・気づいたことを共有したいと考えました。最後に一番下の部分は、定性的な評価を行うにあたり、検討材料となるこれまでの食育活動の実践事例をピックアップしていくこととしました。

続いて、具体的な取組についてご説明致します。当日のワークショップメンバーはご覧のとおりです。官民合同でチームを編成しました。「おこめ」チームはファシリテーターの本多さんを含めた7名、「くるぶし」チームはファシリテーターの大久保さんを含めた7名です。当日は、「おこめ」「くるぶし」2つのチームで、3つのワークを行い、区民等と区のそれぞれの立場から意見を出し合いました。ワーク1つ目は、「何を育もうとしてきたのか」ということで、墨田区食育推進計画の変遷に沿って、官と民の取組時の意識を読み解き、計画のどこを、どのように意識して、取り組んできたか、両者の視点を重ねてみました。ワーク2つ目は、「何を大切にしてきたのか」ということで、食育の実践活動の中で、官と民が「活動する上で譲れない点・心掛けているポイント」など、実感したこと・気づいたことを掘り下げ、両者の視点を重ねてみました。ワークの3つ目は、「すみだの食育の実践事例をあげる」ということで、事例の大小・長短、成功・残念事例問わず、これまで行われてきた取組事例を官と民で多く出し合い、それぞれの取組事例のポイントを確認しました。

次に、ワークショップの結果についてです。まず1つ目のワーク「何を育もうとしてきたのか」では、両チーム共通であがった意見が「『食』で大切ということでした。他にも、「人と人のつながりを意識していた」や、くるぶしチームの左下のイラストのように、民と区とそれぞれ異なる役割であってもお互いをつなぐ共通理念がしっかりしていれば、しっかり動いていくというご意見もありました。次に2つ目のワーク「何を大切にしてきたのか」では、おこめチームからは、対等な関係、合意形成、ワクワク、生きる力などが出ました。くるぶしチームからは、言葉は同じでも人や立場によって捉え方が異なっている印象があるという意見から、さらに民は質やつながりの深さ、行政は間口を広げていくことが役割ではという意見が出ました。3つ目のワーク「すみだの食育の実践事例をあげる」では、スライドのような事例があがりました。ほとんどが成功事例としてあがりましたが、福島県相双地域との交流については、成功事例としてあがった一方で、活動が途切れてしまったという視点で、もう少し良くなりたい事例としてもあがりました。他にも活動の拠点づくりなどがもう少し良くなりたい事例として上がりました。

最後に、今後のスケジュールについてです。令和6年度には「評価のモノサシづくりのWS」を開き、今回のメンバーより幅広くお集りいただき、モノサシづくりに取り組みます。そしてそのモノサシを用いてこれまでの事例を評価していきながら、つくったモノサシもブラッシュアップしていき、計画改定作業を行う令和8年度まで、順次、「すみだらしい食育」の見える化を進めていきます。以上になります。

□佐伯委員長

報告を受けてご意見、ご感想をお伺いしたいと思います。友成委員は午後2時半頃でご退席と伺っていますので、先にご意見を伺いたいと思います。以前の定性的な評価については、友成委員も関わっていると伺っています。こうした新たな定性的な評価の仕組みづくりについてどう感じていらっしゃいますか。

■友成委員

教育の立場から生涯学習における学問の意図を考え続けているのですが、私の定義の中では、「問うことを学ぶ」ことなのではないかと思っています。問いには答えがあるのですが、どちらに価値があるかという、圧倒的に問いの方に価値があると私は思っています。しかし、世の中では、答えに価値があって、皆が納得するような答えを出したものが評価されるということになっています。そして、人々は問わずに答えに飛びついて、それを受け入れています。何故かという、それが楽だからです。例えば、食育の意味というのは、国の法律にも報告書にも書いてあります。私もかつて行政にいたので、行政が国民に分かりやすい答えを提供するのが仕事だというのも良く分かりますが、答えにそのまま飛びつくのは非常に危険だと考えています。他人がつくった答えに依存してしまうからです。生成AIがつくった答えに依存した先にどんな世界があるのか非常に怪しいというのが私の考えです。

私はすみだの食育活動が常に日本一、世界一だと考えているのですが、その理由がまさにここにあると考えています。すみだの食育活動の素晴らしさは、この活動に関わっている区民の皆さん一人ひとりが問いを発し続けていることだと思います。このことは、答えだけ見ても表面的には分からないことなのですが、good ネットの活動の裏にあることですか、食育推進リーダー育成講習会で出されたことですか、特に定性評価の検討の取組にそれが出てきていることだと思います。それはどのような問いかけかというと、「食育とは一体何か」ということです。もっと本質的に言うと、「私にとってすみだの食育活動をする意味は何か」という問いかけだと思います。実は、この問いかけは、「私は何のために生きているのか」ということと同じなのです。生成AIに「私がすみだで食育活動をする意味は？」と問いかけても、おそらく適切な答えは返ってこないと思います。それが生成AIの限界なのです。ミクロな「私」にとって必要な問いについては、他人に依存せずに自分で考えていくしかないのです。それが自分の人生を自分のものにする事なのではないかと思っています。

定性評価の取組というのはとても素晴らしいと思っています。定性評価の答えを出すことが大切なのではなく、定性評価で何を問うかが大切なのです。定性評価の検討会議ですみだ独自のモノサシを検討するということでしたが、まさにそのことが、どこにも存在しない、すみだ独自に一人ひとりが「食育活動に参加する意味」に対する問いに他ならないのです。「すみだらしい食育」の答えに意味があるのではなく、それを問い続けるという行為そのものが「すみだらしい食育」活動そのものではないかと私は思っています。そして、こうしたことを行っているのは、おそらくすみただけだと考えています。今後も食育活動に参加する方々が、自分自身の問いを発し続ける限り、「すみだの食育」は輝き続けるのではないかと私は思います。

◇事務局

友成委員の言葉を聞いて、すみだの食育の思想担当ということを実感しました。行政栄養士の人材育成に令和5年度当初から取り組んできましたが、行政側は本質部分をつかむのに大変苦労してきたところでしたが、本質をついたコメントをいただいたのだと思いました。定性的な評

価については令和6年度もいただいた言葉を大切に、取り組んでいきます。

□佐伯委員長

ありがとうございます。続いて、定性評価検討会議について、委員でもあった米倉委員から補足やご意見等あれば、お願い致します。また、ワークショップの部分に関してもご感想等あれば合わせてお願い致します。

■米倉委員

今回、4名の中の1人として会議に参加させていただきました。今回委員になった4名は、食育や地域活動、計画づくり等の活動に参加しているメンバーでした。そのメンバーで「評価」という点で具体的にどうやって考えていくのか意見を出し合った時に、「すみだらしい食育」とはどんなことなのか、「手間かけて」とはどういうことなのか、これまで分かったように感じていたけれど、もう少し突き詰めて考えてみないと具体的なものが出せないというところから議論が始まったと思います。資料の真ん中あたりにある、「評価に向けたモノサシ」というのも、墨田区の様々な団体の方たちがそれぞれ独自の目的や存在意義の中で進めている活動に、食育の意味も持ち合わせてもらって、今後一緒にやっていくためには、目安となる「何か」がないと駄目だと思っています。そういった中で、その「何か」とは何なのか、ということが議論の中心になりました。また、私はここが1番ポイントだったと思うのは、横に広がりがある「すみだの食育」をどのように整理していくのかについて考える際に、私のように外部から関わっていると一般的な手法で考えがちですが、他の3名の委員の方はすみだで活動をされている方たちなので、これまでの食育の先進事例や良いところを含めて、そこから読み解いていきたい、そこを具体的な手法としていきたい、という意見でまとまったと思います。これは、縦の時系列的なつながりをどんな風に考えていくか、「すみだの食育を次世代に引き継いでいく」という一つの手法の成り立ちでもあったかと思っています。

私自身、ワークショップをはじめ、これからの活動にとっても興味を持っていて、見守りたいと思っています。委員の皆様にもその所属する団体の方たちにも、合意形成の部分から一緒に考えていく、というところが非常に大切だと思いますので、これからも一緒に取り組んでいただけたらと考えています。よろしくお願いします。

□佐伯委員長

ありがとうございます。原委員はワークショップで講評をされたということでしたが、現場でご覧になつての率直なご意見・ご感想を伺えますか。

■原委員

食育のこうした会議に関わらせていただいてまだ年は浅いのですが、ワークショップに関わることで、すみだのワークショップがどこまですごいのか、すみだの食育の取組がどこまですごいのかを肌で感じることができました。立場が違う人達が、立場をこえて議論をすることで、よりそれぞれの立場の中で持っていた食育のイメージ、達成していきたいというものがそれぞれの立場の中だけよりも、より一層広がっていったという気がしました。立場が違うことで対立するのではなく、例えば、言葉一つにとってもお互いに違う言葉の使い方をしていたけれど、根っここのところでは何が繋がっているのかについて意見交換していたり、そういう想いをこれからどうやって広げていったら良いのかについて、もう少し行政的な観点で仕組みを使ったり、組織を使ったり、といった話が出ていたりしました。手法だけではなく、その背景にはこんな想いがあるという話をする中で、離れているとお互いが信用・信頼しきれないところが共通の気持ちを持ってお互いに議論ができていたと思いました。それはすごいことです。先程友成委員が、日本一、世界一の取組とおっしゃっていました

が、もしかしたら官民協働で何かを行っていくという点で、食育というテーマをこえてすぐ可能性を感じられる取組になっていたかと思います。

1回のワークショップでその可能性を感じられるということは、これをさらに続けていけると、より一層大きな成果が出てくるのではないかと感じました。今回は、行政と現場で食育の活動をされている方々で、ある意味関係者であったということだったと思うのですが、今後は「食」というテーマでは繋がるかもしれないけれど、「すみだの食育」に関しては無関心もしくは冷めた目で見ている方々（普段の生活の中では大多数である可能性が高い方々でもあると思うのですが）、そうした方々を巻き込み、そういう方々の意見を食育という観点の質的部分を高めていくことに繋げていけると、さらに取組が広がり、価値が上がるのではないかと感じました。スケジュールを見ると、そういう取組を今後進めていくということのようなので、4名の委員の皆さんもワークショップの枠組みを考えるに当たり、相当なエネルギーを注いだのだと思いますが、それをいかに続けていけるようにするかを考えていくことも1つのチャレンジになっていくのかと思いました。

□佐伯委員長

続いて次第の3、議事に入らせていただきます。議事については出席委員の過半数の賛成をもって承認となりますのでよろしくお願ひいたします。議題2～3は議題1と関連しているため、事務局からは議題1～3についてまとめて説明してもらい、その後議題ごとに委員の皆さんのご意見を伺ってきたいと思います。では、事務局の方から説明をお願いします。

◇事務局

令和6年度の食育推進事業の予定についてご説明をさせていただきます。資料10をご覧ください。来年度の事業予定については、予算が成立する前のため、あくまでも現時点での予定としてご理解いただければと思います。資料8の1～3については、今年度も実施しているものとなり、次年度も引き続き実施を予定しているものになります。

1の食育推進全国大会については、来年度は大阪府での開催ということで、6月1日・2日を予定しています。すみだの食育について、すみだ食育 good ネットの皆さんとともに隣同士のブースでPRする予定です。続いて、すみだ食育フェスについては、6月19日（水）～23日（日）の期間を中心に開催したいと考えております。実施内容等については、今後関連団体の皆さんと調整の上、決定していく予定です。また、3のこども商店街についても、今年度は販売体験とPR動画作成に分かれて実施をしてもらいましたが、実施方法や実施時期について児童館やすみだ食育 good ネットの皆さんとも整理をさせていただき、実施をしたいと考えています。4の「定性的な評価」のワークショップについては、先程ご報告をさせていただきましたとおり、令和6年度は、令和5年度に行ったワークショップを受けて、官民でともに「モノサヅくり」に取り組んでいきます。

具体的な流れについては、資料11をご覧ください。まずは、仮称ですが、すみだ食育推進会議の部会として、「墨田区食育推進計画評価検討会議」を立ち上げます。こちらについては、5月に開催予定の来年度の1回目の食育推進会議の中でご承認をいただきたいと考えています。ワークショップで検討いただいたご意見について、検討・承認をいただくための会議体として位置づけたいと考えています。続いて6月ですが、すみだ食育フェスの展示会場にて、今年度合意した「定性的な評価の流れ」について、展示物等で区民の皆さんへ共有したいと考えています。そして、7月～9月にかけては「定性的な評価」のモノサヅくりワークショップを3回開催したいと考えています。メンバーとしては、先程報告の際にご説明しました通り、すみだ食育推

進会議の委員の皆様や計画書の「特徴的な活動事例」の関係者の皆様などを想定しています。12月には、検討会議を開催し、委員の皆様ワークショップで検討いただいたご意見について、検討・承認をいただき、「すみだの食育の独自モデル」を確立したいと考えています。その後、庁内の検討会議や「すみだ食育推進会議」にて共有し、承認をいただき、3月には区ホームページなどで「すみだの食育」の独自モデルを公表し、区民の皆さんにも共有させていただきたいと考えています。

続いて、5の災害時食支援ネットワークの構築についてです。災害時食支援ネットワーク検討会を8月と12月に開催したいと考えております。詳細については、資料12をご覧ください。この検討会は、食育推進会議の部会として位置づけられていますので、皆様に次年度の体制及び内容についてご承認いただければと思います。委員は1年任期のため、現在各団体に推薦依頼を行っています。内容としては、1月にシミュレーションを行い、たくさんのご意見を頂戴しましたので、その整理をさせていただき、アクションカードのブラッシュアップを図っていきたく考えています。また、後半ではアクションカードとマニュアルの活用方法について改めて検討を行いたいと考えています。

続きまして、資料10に戻っていただき、6は、計画書の定量評価指標になっている農業・漁業体験のアンケート調査となります。こちらについては、例年通り秋頃の実施を予定しています。そして、7の芽室町との食育を通じた交流事業については、今年度までは文化芸術振興課が所管となっていましたが、次年度からは、交流の総合窓口は文化芸術振興課が、食や食育に関する交流事業については、保健計画課が窓口となって実施をすることとなりました。令和元年度以降行ってきた特別区全国連携プロジェクトの成果を活かしながら、すみだ食育 good ネットの皆さんとともに、食育を通じた交流事業を展開していく予定です。最後に、食育シンポジウムについては、区が後援で開催している乳幼児とその保護者、保育者向けに実施しているものとなり、来年2月15日に曳舟文化センターで開催予定です。以上です。

□佐伯委員長

ありがとうございます。では、まず議題1の「令和6年度食育推進事業」について、ご意見ございますでしょうか。新たな取組としては、芽室町との食育を通じた交流事業の説明がありましたが、大久保委員から何か補足、ご意見等ありましたらお願いします。

■大久保委員

交流事業は今年度で終わるといった話もありましたが、こういった形で継続していただけるということで、よろしいのではないかと思います。また、先程、教育分野での実体験というお話がありましたが、芽室町を訪問した際に、キャベツ畑での収穫の様子等の動画も撮影していますので、実体験する前に、見てもらえると良いのではないかと思います。

□佐伯委員長

では、「令和6年度食育推進事業について」ご承認いただける方は挙手をお願いいたします。（「出席委員の過半数」の賛成をもって承認）

続いて、「令和6年度定性的な評価の流れ（案）」について、ご意見ある方は挙手をお願いいたします。

■本多委員

2点あります。1点目は、友成委員からもご指摘がありましたが、来年度はとても大事な1年になると思います。問い続けるプロセスを大事にして、検討の土台を区でも予算や人のマネジ

メントについてしっかりと動いていただきたいと思います。

もう1点は質問なのですが、評価検討会議は何回開催する予定なのでしょうか。

◇事務局

1回を予定していて、調査結果やワークショップで出たご意見等について、この会議で委員の方から承認いただきたく、立ち上げは5月ですが、開催は12月で考えています。

■本多委員

ワークショップの実働の部分と、検討会議での議論の部分をしっかり両輪で回していけると土台ができて良いと思いました。

■田口委員

質問なのですが、よろしいですか。「モノサシ」というものは何となく分かったような、分からないような、という感じなのですが、どういう意味で使っているのでしょうか。一般的には、人を物差しで計ったらいけないと言われていましたよね。

◇事務局

モノサシは、検討会の中で出て来た言葉で、基準や指標という意味で使っています。評価をする上で、基準となるようなものとして考えています。

□佐伯委員長

米倉委員は会議にも出席されていましたが、いかがでしょうか。

■米倉委員

事務局から評価基準という話がありましたが、もう少し具体的に言うと、私は、何を大切にするのかの「視点」と捉えていました。それぞれの存在意義や目的が違う団体が、それぞれ活動する中で、食育的視点をプラスして活動していくに当たり、何を大切にしているのか、どういう考えで進めているのかの「視点」の部分がまだフワッとしています。これを各団体から聞き出して、実際にどういう言葉だったら皆さんがしっくりくるのか、というものを見つけ出していくことだと認識し捉えています。

□佐伯委員長

ありがとうございます。では、「『定性的な評価』の流れ（案）」について、ご承認いただける方は挙手をお願い致します。（「出席委員の過半数」の賛成をもって承認）

最後に、「令和6年度災害時食支援ネットワーク検討会」について、ご意見のある方は挙手をお願い致します。河上委員から補足・ご意見等あればお願いできますでしょうか。

■河上委員

令和5年度に行ったことも検証が必要な部分がありますので、変えていくというよりは、奥行を持たせて、内容を深めていくよう考えています。

□佐伯委員長

「令和6年度災害時食支援ネットワーク検討会」についてご承認いただける方は挙手をお願い致します。（「出席委員の過半数」の賛成をもって承認）

事務局は、委員の皆様からいただいた意見を踏まえて、事業や計画策定を進めていくようお願いいたします。委員の皆様には、今後の事業等の準備についてご協力いただきますようお願いいたします。議事については以上になります。

最後に「4. その他」です。委員の皆様から何か情報提供ございますか。

■本多委員

すみだ青空市ヤッチャバは、4月6日に開催 600 回目を迎えます。その日は夜まで地域の飲食店にも出店いただき、ヤッチャバのものを食べられたり、子ども達が楽しめたりするような企画をご用意していますので、ご都合がつく委員の皆様は、是非会場までお越しください。

□佐伯委員長

最後に、食育の芽について情報提供です。「を！に！で！」とタイトルにも書いていますが、「食育を」、「食育に」、「食育で」何を育んできたのかということについてご紹介していますので、是非ご覧いただければと思います。以上になります。それでは、事務局にお返しします。

◇事務局

佐伯委員長ありがとうございました。また、委員の皆様も、本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今回で委嘱期間（2年間：令和4年4月1日～令和6年3月31日）が終了となりますので、来年度からの2年間の委員につきましては、現在、各団体に推薦依頼及び御本人様へ依頼をさせていただいております。

次年度の会議の日程については、担当よりご連絡をさせていただきますので、よろしくお願い致します。また、本日お伺いしきれなかったご意見につきましては、資料13の「ご意見・ご質問シート」にご記入いただき、3月27日（水）までにご返送いただきますようお願い致します。それではこれで令和5年度第2回すみだ食育推進会議を閉会させていただきます。皆様、本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

